

令和2年度 経営協議会学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組

本学では、経営協議会において法定審議事項とは別に討議事項を設け、経営者等外部委員の幅広い経験・視点からの助言をいただき、大学運営の改善等に役立てている。

令和2年度においても以下のとおり様々な助言等をいただき、改善に役立てている。

令和2年度第3回経営協議会（令和2年11月17日（火）開催）

Ⅲ 討議事項

1 遠隔授業の成果と今後の課題について

※令和2年度第3回経営協議会議事要録参照

【大学運営の改善等に関する意見】

- ① 社会人を対象としたリカレント教育について、コロナ禍ではオンラインでの開講が多かったが、参加企業の多くから、大学で現役の学生に交じって授業を受けたいという声が上がっている。オンラインのメリットも活かしながら、対面授業の機会も設けていけるとよい。
- ② 企業に教員が赴く出張授業も検討していただきたい。
- ③ 対面では物理的に招くことが難しかった国内外の著名な有識者をゲストにした講演など、オンラインを活用した交流等にもどんどん取り組んでいただきたい。

【本学の対応】

- ① コロナ禍のもとで得た経験と知見を活かしたオンライン授業と、対面授業の両方を取り入れたハイブリット型の授業及びリカレント教育への開講科目の増加について、令和3年度も引き続き大学全体で努力していきます。
- ② 今後、ニーズの把握に努め、大学と自治体・企業等で構成している「いばらき社会人リカレント教育懇談会」などで検討していきます。現在、新型コロナウイルス感染症(covid-19)拡大防止の観点から、早急な対応は難しいと思われていますが、十分な対策を講じた上での開講を検討します。
- ③ 新型コロナウイルス感染症(covid-19)の影響でこれまでのように海外への渡航、海外からの渡日が困難な状況にある中で、「今だからこそできる国際交流」として、「こんな時だからこそつながろう！茨城大学国際交流プロジェクト2020」を立ち上げ、令和2年度において12回の企画を実施しました。

Ⅲ 討議事項

1 「イバダイ・ビジョン2030（素案）」について

※令和2年度第5回経営協議会議事要録参照

【大学運営の改善等に関する意見】

- ① 2030年に茨城大学が目指す姿を端的に表す一文があるとよい。それを4つのビジョンが支えるという構図にすると、インパクトがあってわかりやすいのではないか。
- ② 2030年に向けた10年間のビジョンということだが、計画を練ってから1年で状況が劇的に変化することもあるので、当初のビジョンを定期的に見直し、ローリングしながら遂行していただきたい。
- ③ 茨城大学は地域との関わりが密接で、地域貢献にも重要な役割を果たしている。大学のブランディングにも関係するが、茨城大学と地域社会との関わり方についてもひとつ項目を設けてもよいのではないか。

【本学の対応】

- ① ビジョン全体を包含する、本学として目指す姿を表題として一文で示すとともに、それを実現するため、本学が取り組む3つの大きな方向性について簡潔に記載しました。
- ② 前文において、社会の変化を捉えながら、進捗や社会的意義を検証し、逐次ブラッシュアップしていくことを示しました。
- ③ 本学と地域社会との関わり方については、すべてのビジョンと関係しており、敢えてまとめて一項目とすることはせず、タイトルや前文の中で、地域との関わり方についての考え方を包括的に示しました。